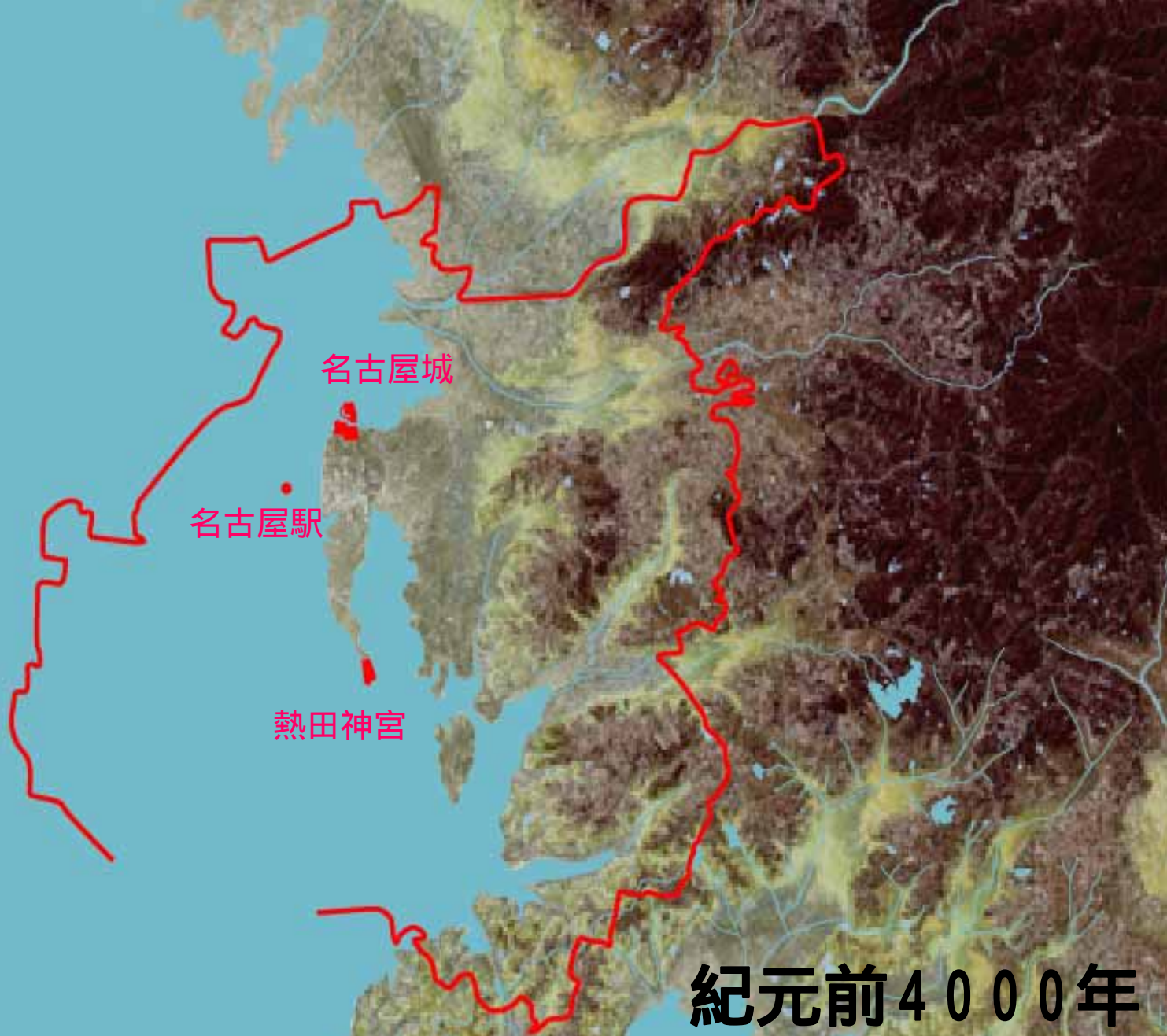


低炭素都市2050なごや戦略

～ 低炭素で快適な都市なごや への挑戦 ～

平成22年3月2日

名古屋市環境局地球温暖化対策室



名古屋城

名古屋駅

熱田神宮

紀元前4000年

提供:ランドスケープ・プラス 平賀達也



名古屋城

名古屋駅

熱田神宮

名古屋築城1610年

提供:ランドスケープ・プラス 平賀達也



名古屋城

名古屋駅

熱田神宮

現在2009年

提供:ランドスケープ・プラス 平賀達也

環境首都なごやを目指した主な取り組み

低炭素社会

2010年目標
CO₂ 10%削減

低炭素都市2050
なごや戦略

策定済 (H21.11)

自然共生社会

2010年10月
COP10開催

生物多様性
なごや戦略

策定中 (H21年度末)

循環型社会

なごや水の環復活プラン

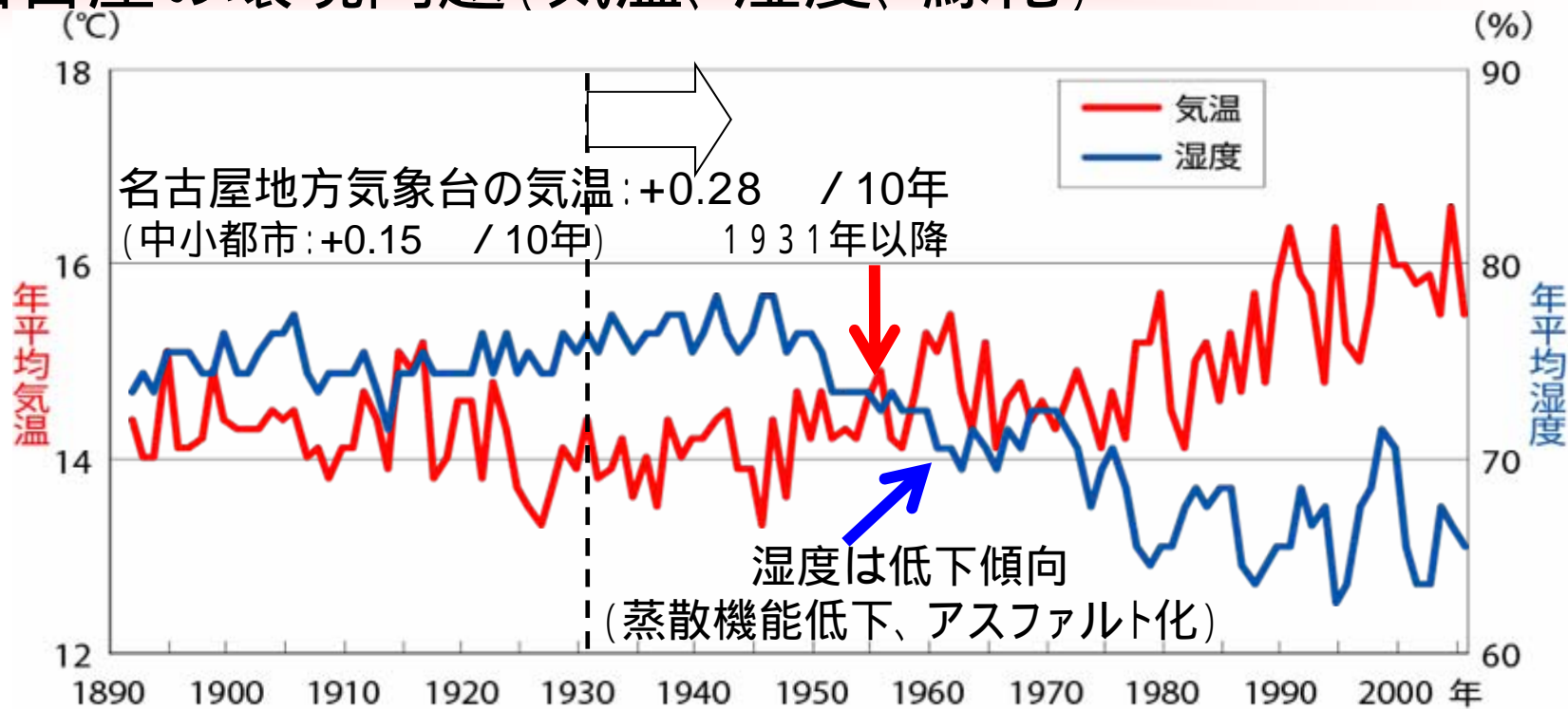
バイオマスタウン構想

第4次一般廃棄物処理基本計画

水の環復活2050
なごや戦略

策定済 (H20年度)

名古屋の環境問題(気温、湿度、緑化)



クールスポットの減少

1947年

1967年

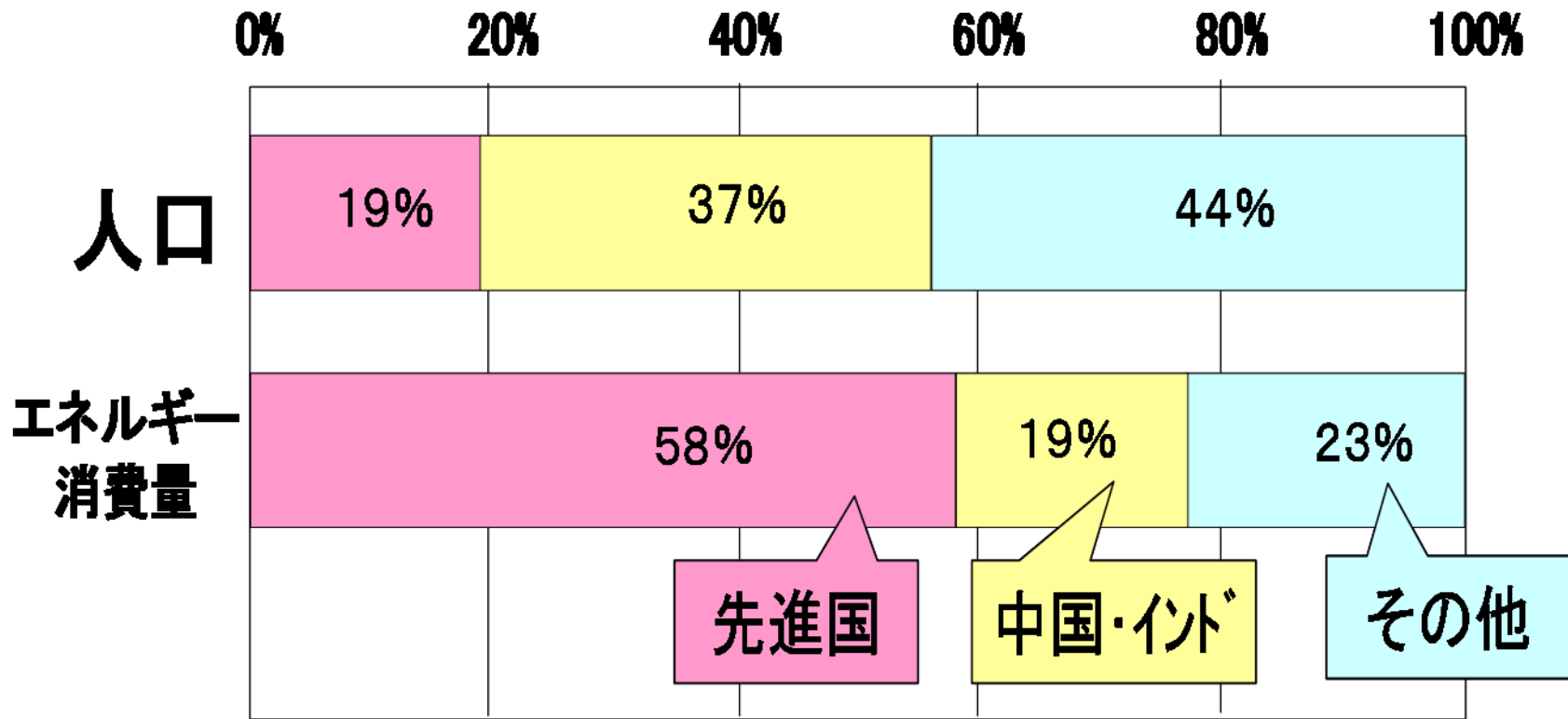
1981年

2005年 緑被率 25%

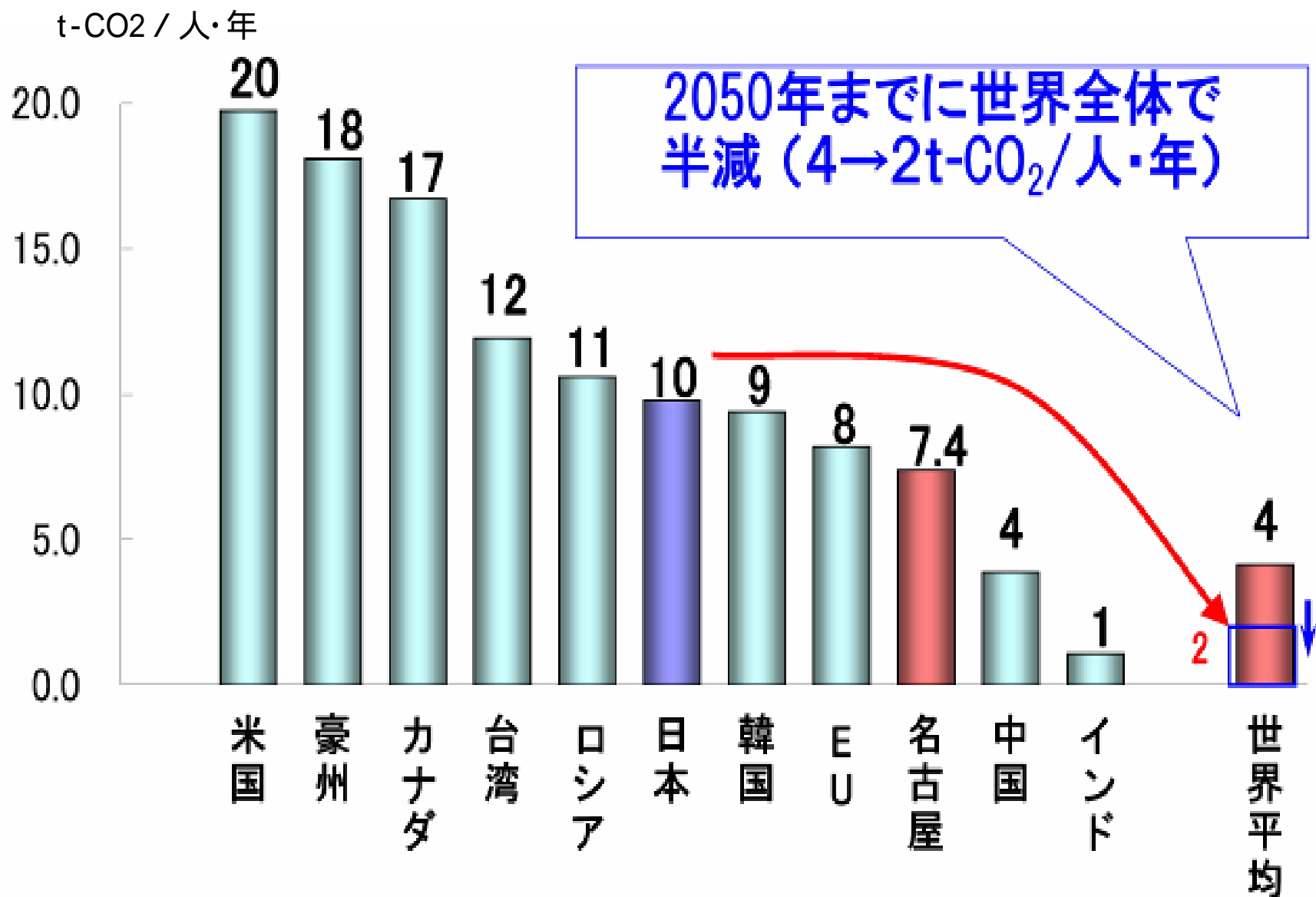


化石燃料枯渇の懸念

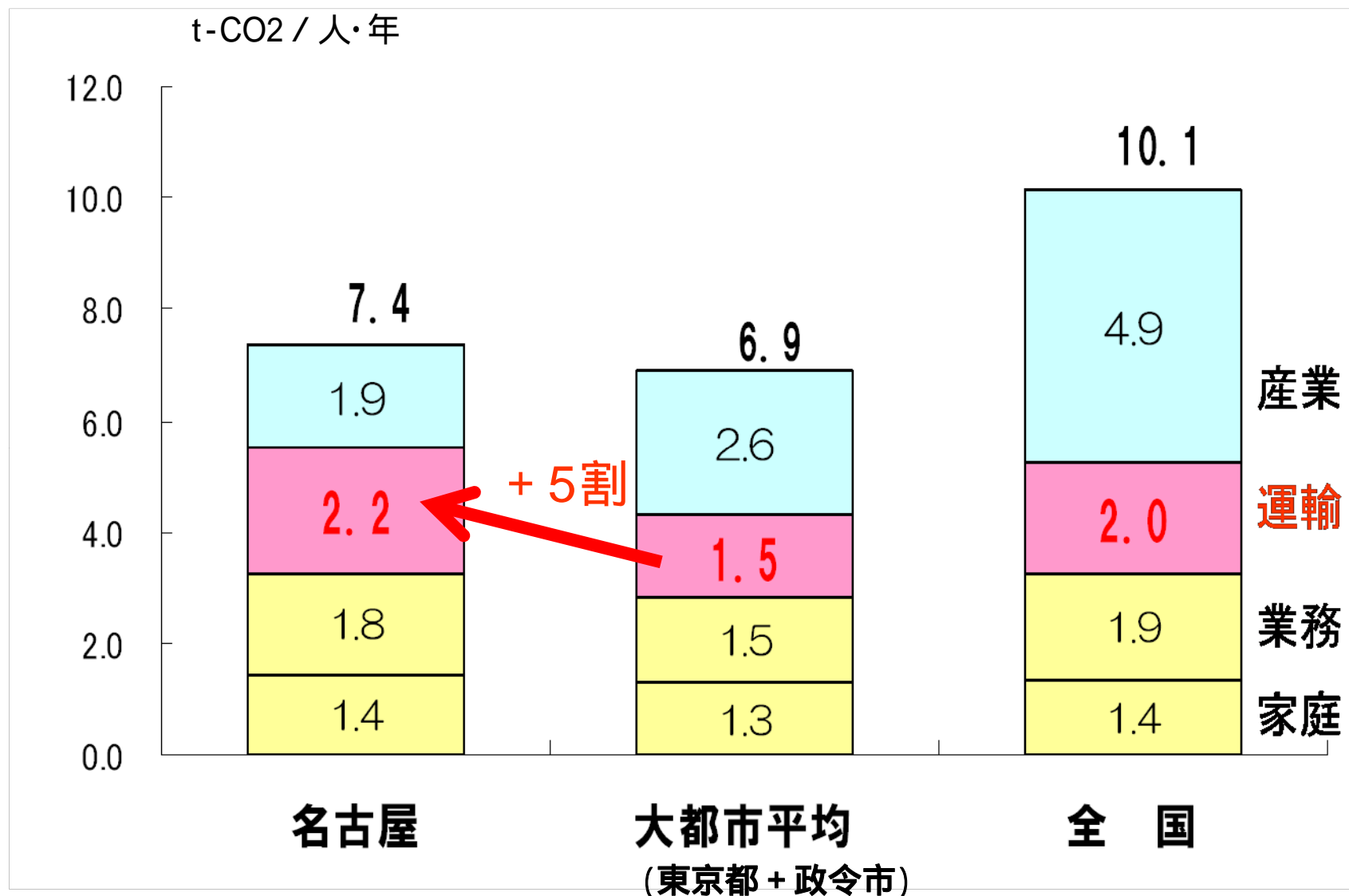
■世界のエネルギー消費 (2005年)



世界全体で半減に向け、名古屋の目標は！

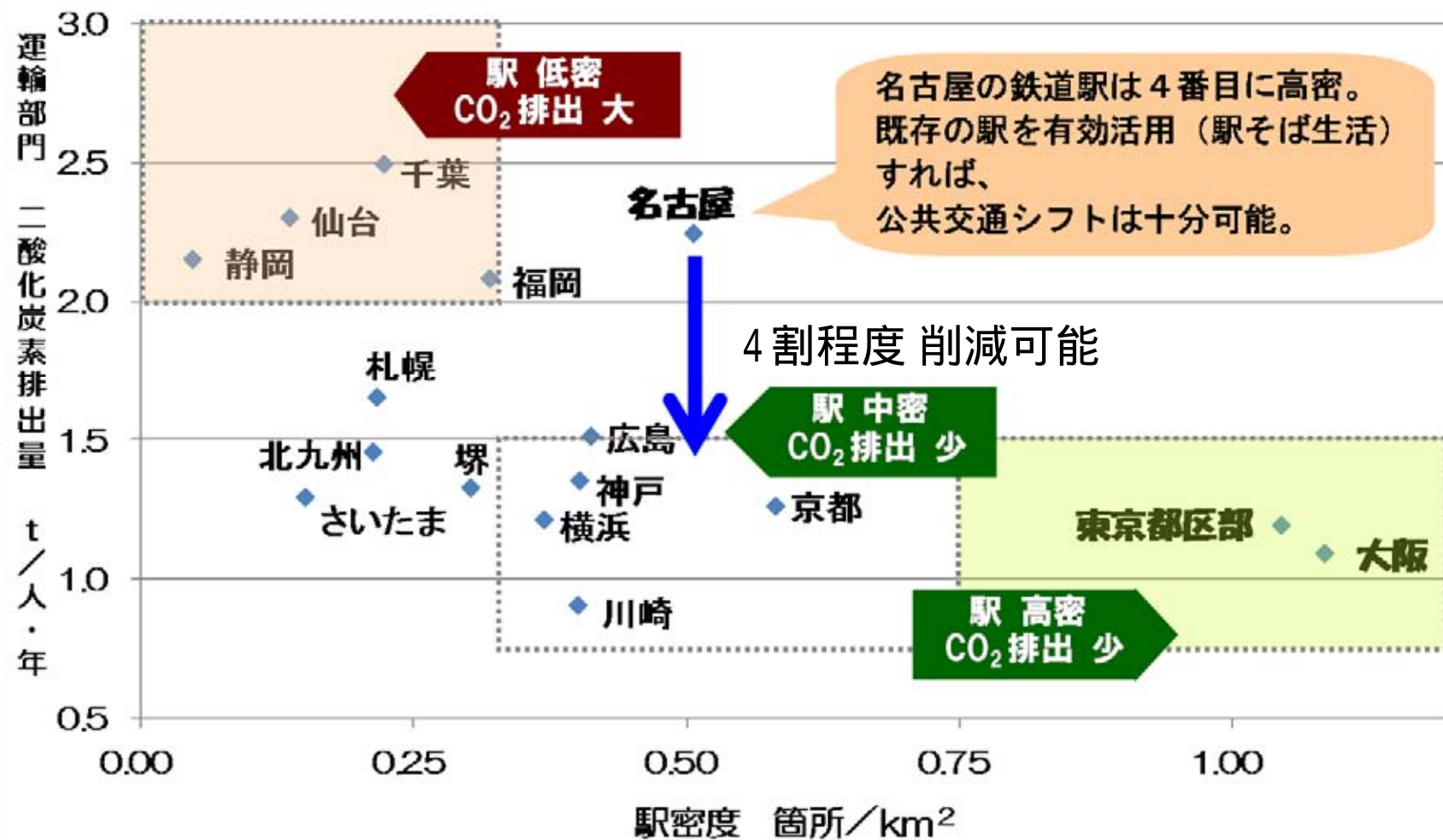


名古屋のCO2排出量の特徴は？



名古屋の都市の特徴

運輸部門の二酸化炭素排出量（都市・駅密度別）



市民協働の財産

なごや環境大学

実績(2008)

138講座・18,200人受講 7割以上が市民・企業の企画

次世代の環境学習

実績(2008)

なごやエコキッズ : 幼稚園・保育園 466園

なごやエコスクール : 学校 396校

なごやEバー-サルユニット : 大学 13 大学 16 キャンパス

エコライフ宣言

H17.11~

宣言者数 : 約42万人 (人口の約2割)

うち 子ども : 約18万人



幼稚園児から社会人までが一堂に会した「なごやかトーク」



小林事務次官も交え、学生と社会人が2050年の将来像を議論した「戦略シンポ」

大きく変化する今後の社会

人口と高齢化の推移

	1930年	'60年	'80年	2005年	'30年	'50年	'80年
人口 (全国) (名古屋)	50 45	74 72	92 94	100 100	90 95	74 90	50
高齢化率 (全国) (名古屋)	5% 3%	6% 4%	9% 8%	20% 18%	32% 29%	40%	42%

戦略での想定

推計値は、国立社会保障・人口問題研究所の公表値に基づく

低炭素都市構築の4つの視点

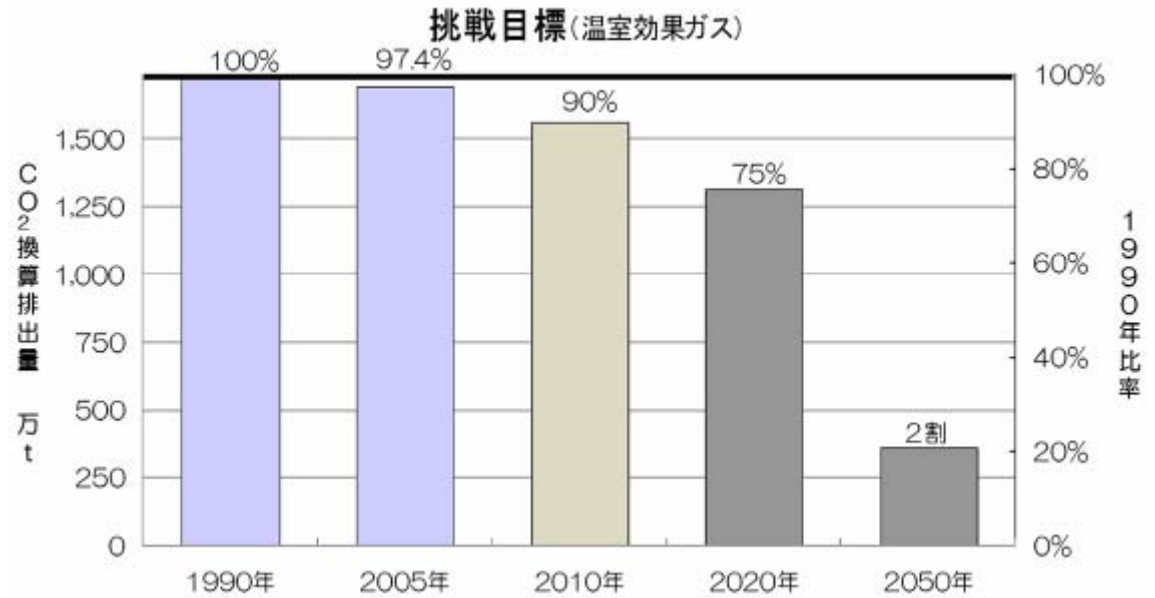
視点	方針
まちづくり	公共交通を中心とした集約型都市構造への転換 (駅そば居住、公共交通・徒歩・自転車シフト、交通手段の共同利用) 自然と共生する都市への再生 (自然と風土を生かしたまち、緑・水の回廊、風の道・水の環の復活)
ものづくり	最新環境技術と知恵を取り入れた都市 (超省エネ・超低燃費、自然空調・パッシブ設計、次世代型交通システム)
エネルギー	化石燃料から自然エネルギーへの転換 (太陽光・熱利用、廃棄物・バイオマス利用、面的共同利用)
社会システム	低炭素ライフスタイル・ビジネススタイルの普及 (環境配慮行動の「見える化」、広域連携、所有から共同利用へ など)

削減目標 (温室効果ガス)

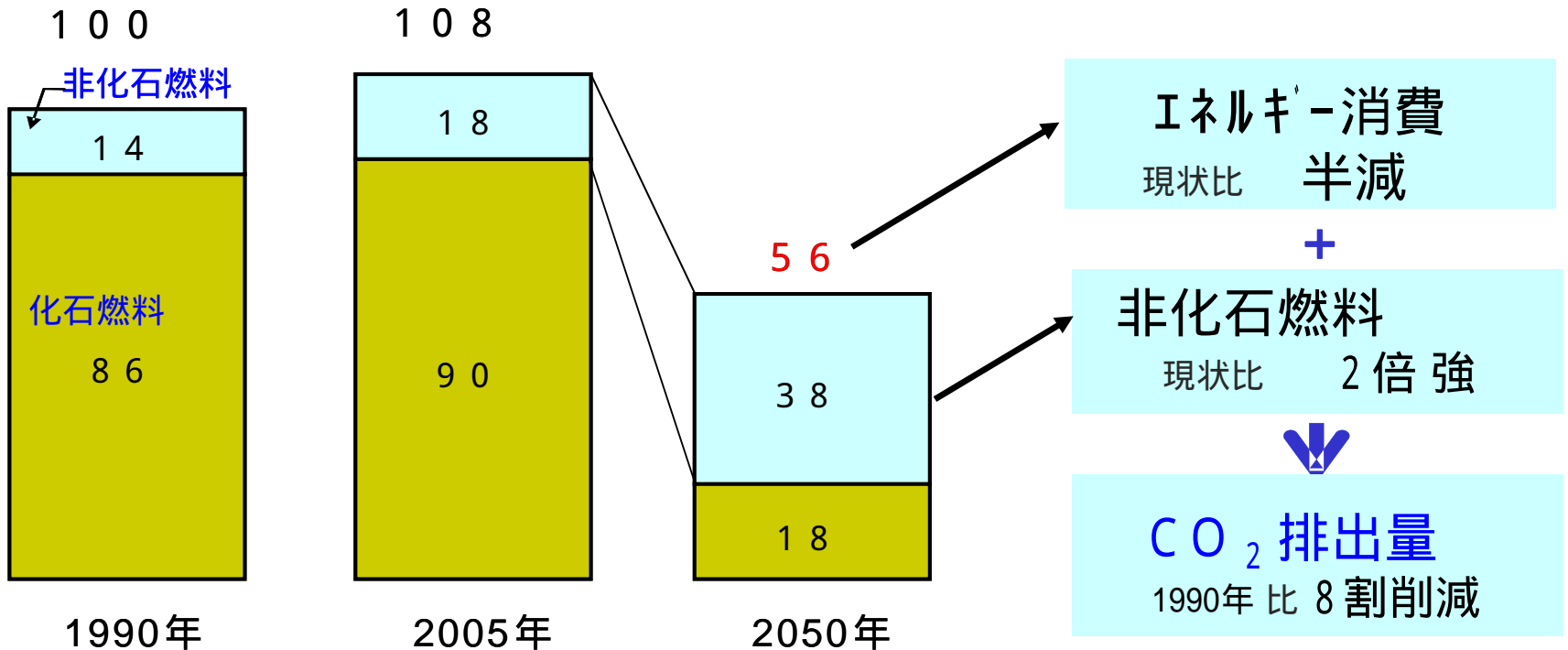
挑戦目標 (1990年比)

長期目標 (2050年) 8割削減

中期目標 (2020年) 25%削減



エネルギー消費量 1990年 = 100



総合目標

低炭素で快適な都市 なごや

歩いて暮らせる化石燃料の少ないまち
自然豊かで、冷暖房のいらぬまち
市民と事業者、行政の協働が創る低炭素のまち

3つの生活像と市民協働パワー

市民協働パワーが支える3つの生活像

駅そば生活
歩いて暮らせる
駅そば生活

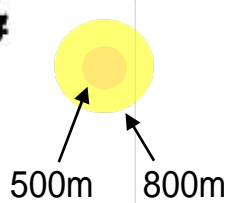
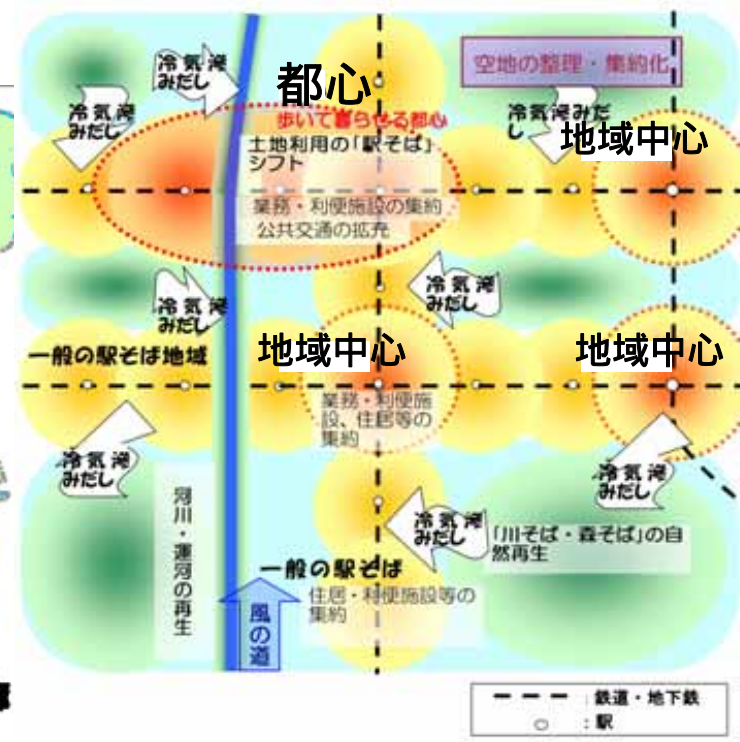
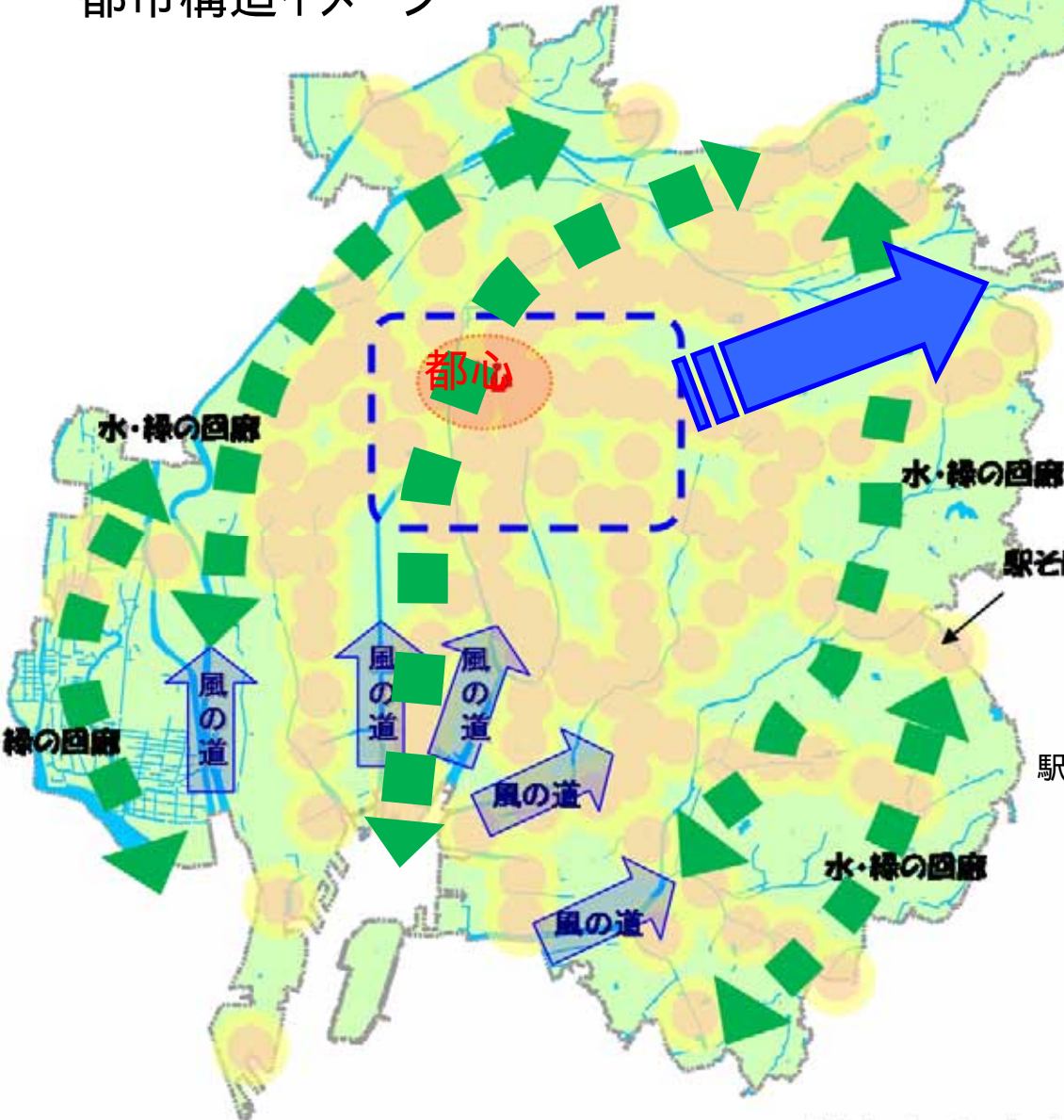
風水緑陰生活
身近な自然を
享受できる生活

低炭素「住」生活
自然と超省エネ機器を活用
した快適低エネルギー生活

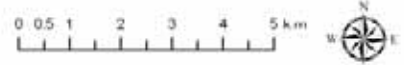
- ・くるま
- ・すまい・しごと
- ・地域エネルギー

将来像

都市構造イメージ



駅そば：現在の鉄道や地下鉄の駅から500m及び800m圏を例示として示しています。



「駅そば生活」

めざす将来像

歩いて暮らせる駅そば生活圏の創生

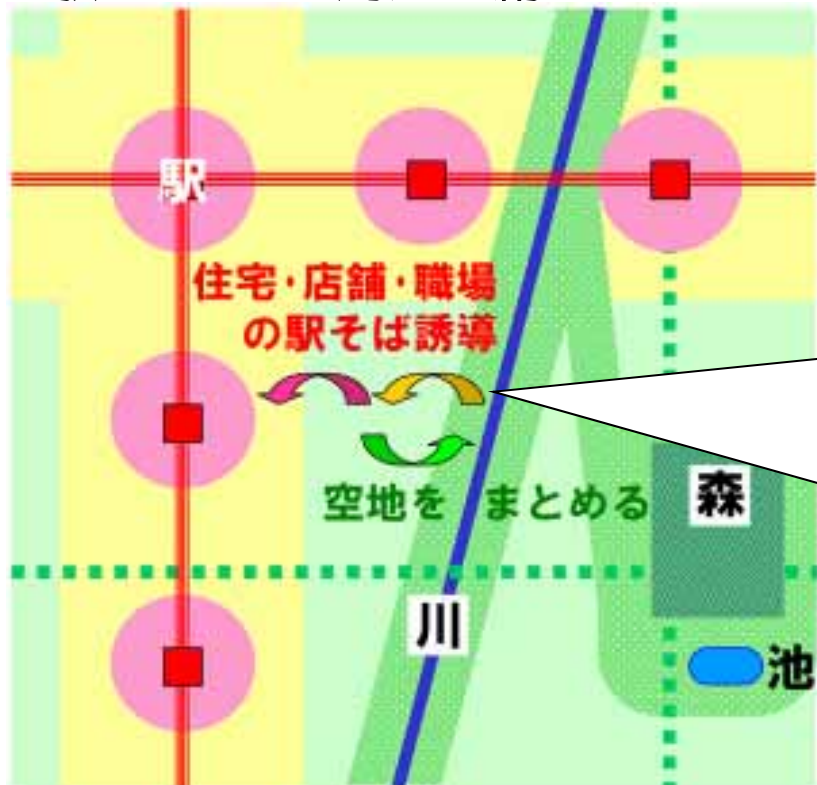
駅そば居住などの促進、徒歩・自転車・公共交通で暮らせるまち
土地利用の集約化に合わせて、自然環境の保全と
エネルギーの共同利用が進んだまち
交通まちづくり(交通手段と都市空間、自然との新たな関係づくり)

指標 現状 2050

駅そば人口比率
63% 75%

<参考>
駅そば人口密度(人/ha)
79人 85人

駅そばとその周辺の創生のイメージ



新制度の検討開始

里山守れば高いビル建設認めます

里山や緑地を保全すれば、名古屋駅周辺地区などの都心部でより高いビルの建設を認める。

高層ビルの容積率の緩和と引き換えに、業者に開発の恐れがある里山を買い取ってもらい保全を図る。

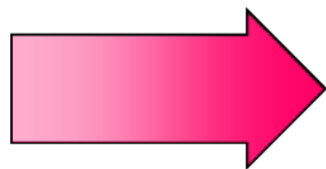
「駅そば生活」

駅そば街区を事例に・・・



青空駐車場

街区の1 / 3

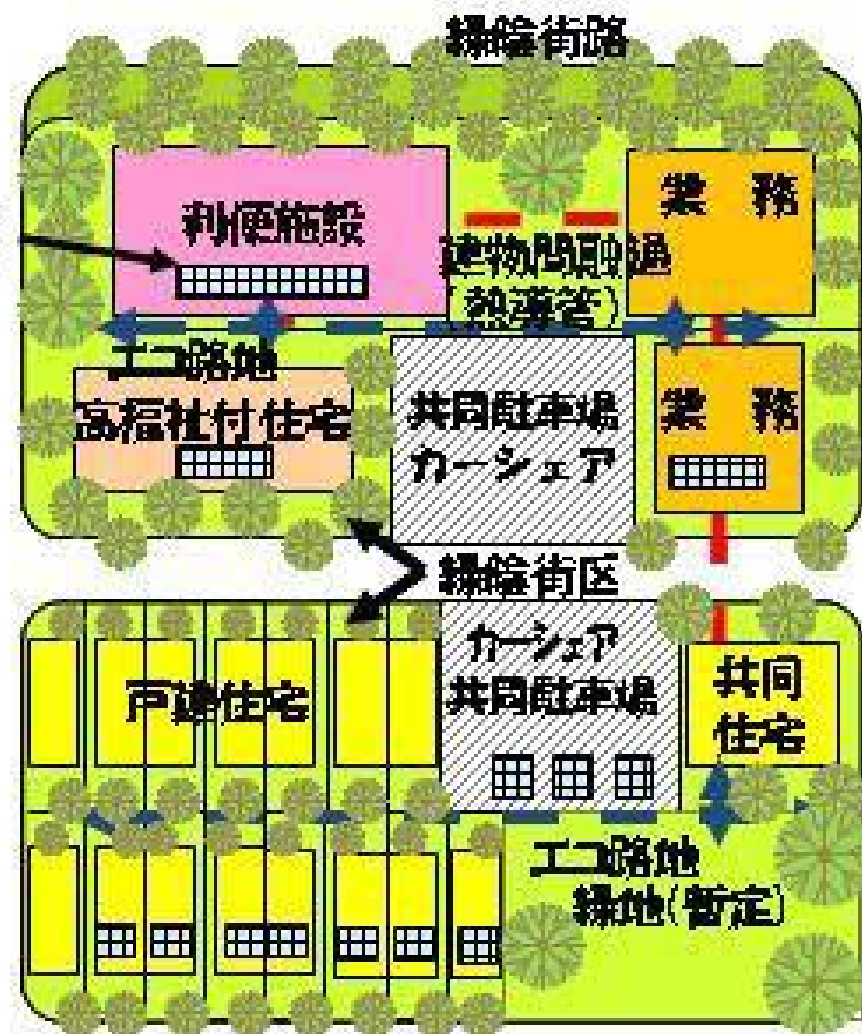


太陽光発電

低炭素化と自然の両立

駐車場や建物形態の工夫

人口密度	110人/街区-ha
緑地	3割UP
エネルギー消費	約45%DW
CO ₂ 排出量	約65%DW



めざす将来像

身近な自然を享受できる生活

自然・風土を生かした都市再生・低影響開発(水の環復活)
 街路・敷地・建物の緑化 (緑陰街路・緑陰街区)
 川そば・森そばの再生、自然空調の活用
 (風の道 = 海風、クールスポット = 樹木の蒸散)
 農地・里山などの保全・活用

指 標	現状	2050
緑被率	2.5割	4割
水の流れ		
浸透率	14%	33%
直接流出率	62%	36%
蒸発散	24%	31%

緑化地域指定による敷地緑化 (緑陰街区)

1年間の実績 (制度開始後)

申請件数	1,449 件
敷地面積	328 ha
緑化面積	52 ha
緑化率	16 %

